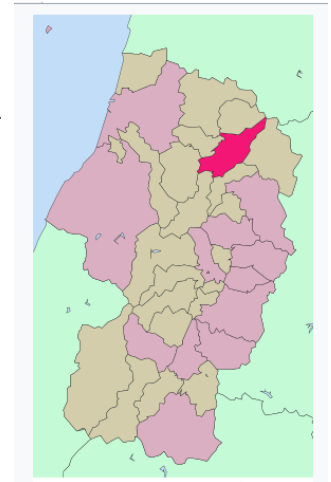


## 新庄まつり

### 山形県新庄市

新庄市は人口約 34,500 人、山形新幹線の終点駅があります。(東京まで 3 時間 40 分、直通) 江戸時代、俳人・松尾芭蕉が門人の曾良を伴い「おくの細道」の旅で新庄を訪れています。元禄 2 年 (1689 年) のことで 2 泊しています。

新庄市の「新庄まつりの山車 (やたい) 行事」は上野天神祭のダンジリ行事と同じく平成 28 年全国 33 の山・鉦・屋台行事の 1 つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。8 月 24 日、25 日、26 日の 3 日間の人出は令和元年の数字で 56 万人です。



### 新庄まつり百年の大計

新庄市のサイトを見ますと「新庄まつり」の継承と発展に向けた総合的な振興策として「新庄まつり100年の大計・第4期計画」が公開されています。

名前の通り100年計画であり、10年ごとに第〇期の計画が作られています。第4期計画は2023年から2032年までが計画期間になっています。

### 新庄まつり百年の大計・第4期計画

まず新庄まつり実行委員会委員長の言葉に少子高齢化と人口減少に対する強い危機感が表されおり、計画全体にも危機感がうかがえます。

次に前文において、まつりの本旨(目的)を確認、令和7年の「新庄まつり270年祭」について  
新庄まつり270年を起点に、「市民総参加」の体制を築き、100年後を目指して  
新たな歴史を刻んでいこう

と述べられています。

そして第4期計画の基本目標として

1. 市民総参加による新庄まつりの推進
2. まつり運営組織の連携と強化
3. 財政基盤の安定と新しい財源の創出
4. まつり文化と技術伝承をつなぐ担い手の確保

の4点を挙げ各施策の展開を図っていくとしています。

### 【運営事業費】

\*ユネスコ無形文化遺産への登録など新庄まつりを取り巻く状況の変化に合わせ、各若連への交付金に係る市負担金を増額するなど、市負担金の見直しを随時行ってきた。

\*物販販売も定着してきている。

\*各若連において山車製作材料費の高騰に加え各所帯からの一般祝儀、いわゆる「花代」や協力所帯の減少により財源確保が一段と困難なものになってきている。

⇒ 企業からの協賛金受け入れ、市負担金の見直し

⇒ 有料観覧席にノベルティー配布による付加価値をつける。

⇒ 各若連の運営費については、市負担金及び各種補助金を活用することで、山車製作、運行が継続できる体制づくりを進める。現在一律に交付されている交付金については町内規模の大小や住民数を勘案するなど財政力に応じた交付金にするなど見直しを検討

#### 【観覧客などへの対応】

\*公衆トイレやごみ回収、駐車場や各種案内板の設置などは観覧客の要望にすべて対応できているとは言い難い。

\*案内表示の多言語化も今後の課題

\*宵まつりに観客が集中、後まつりは少ない

⇒ 障がい者、高齢者、ベビーカーを利用する家族連れの観覧者などに配慮した観覧場所の検討を行う。

⇒ 公衆トイレ、駐車場、観覧場所等の案内表示の充実

⇒ 宿泊施設については滞在型観光の面から宿泊場所確保は必須であることから、近隣町村や県内他地域と連携して宿泊場所の確保を図る。

⇒ 後まつり行事として 小若連囃子演奏大会・まちなか鹿子踊・飾り山車の披露の継続に取り組む

#### 【山車行列の運行】

\*本まつりが昼の催事のみとなっていることがまつりの伝統文化であると同時に、そのことが本まつりを形づくる上での歴史的背景を持ち合わせた強みや魅力である。

⇒ 本まつりにおける誘客につながる催事について検討する。

#### 【後継者の育成】

⇒ 神輿渡御行列については、高齢化が進む小頭の負担軽減策を検討するとともに、古式ゆかしい 伝統ある行列として威厳ある立ち居振る舞いを求められる背景等を広報することにより、その 価値を高め、傘回しや奴振り等、修練を要する技の保存・伝承を目的とした講習会を神輿渡御 行列実行委員会において開催し、後継者の育成に努める。

⇒ 新庄まつり山車行事保存会との連携も図りながら、歌舞伎を手本とした場面構成の研修会、山車製作技術講習会を継続的に実施するとともに、製作技術と意識の向上を目指す。さらに、山車製作・運行への新たな参加を促進するため、その魅力の磨き上げと効果的な周知・広報活動を実施する。併せて、教育現場との連携による児童生徒への効果的な啓蒙活動を行う。

⇒ まつり囃子の継承については、伝統的な楽器構成による音色の保存継承を優先するとともに、現在行っている囃子合同演奏会と後継者育成に大きな役割を果たしている小若連

囃子演奏大会の継続に努める。また、囃子演奏を足掛かりとして教育現場との連携を図る。

- ⇒ 新庄まつり行事等に興味がある方を SNS 等により募集し、まつり行事全般に関われるよう、新庄まつりサポーター制度(仮称)の創設など新たな担い手確保対策の仕組みを構築する。
- ⇒ 市内の学校単位で新庄まつりに関するワークショップの開催を行うなど子供の目線から見た新庄まつりに対する考えや意見を提言できるシステムを構築する。

#### 【まつり装束の整備】

- \*現状では市の支援を受け宝くじの収益を財源とする自治総合センターの助成事業を活用し整備を進めているが、全国を対象とした助成事業の為、事業採択も毎年1, 2団体程度になっている。山車運行の途中からの参加者、山車の曳手については小若に付きそう大人も多いことから着用が徹底されていない現状にある。
- ⇒ 現状の自治総合センター助成事業の活用を継続していくほか、他の助成団体による類似の助成事業の調査研究に取り組む

#### 【広報戦略】

- \*全市民がまつりに参加し、賑わうような事業は開催できていない。「新庄まつり270年」の記念事業を企画する段階から多くの市民が参加できる行事の検討が必要
- ⇒ 第4期計画の基本目標において市民総参加によるまつりの推進を掲げていることから大勢の市民が積極的にまつりに関わる機運を高めていくことを目的として、宣言もしくは、条例の制定を検討する。
- ⇒ 教育現場において、総合学習の中で、新庄まつりの起源や由来を学習することにより、児童生徒らの意識の高揚を図る。
- \*新庄まつりの公式ロゴ、公式ロゴデザインは、新庄まつりグッズに使用し、各種宣伝材物の統一化を図っている。加えて、日本酒のラベルに使用されるなど、その認知度も徐々に浸透してきている。

さらに、「新庄まつりの山車行事」や「日本が世界に誇る山・鉾・屋台行事」などのコピーも国の重要無形民俗文化財とユネスコ無形文化遺産登録の表示に合わせて使用し、他の祭りやイベント等との差別化と日本の伝統的なまつりの象徴としての一助となっている。

また、第3期計画中の平成28・29年度の2か年度連続して山形市へ、平成30年度には沖縄県 沖縄市へ、さらに、平成29年度・令和4年度には東京都豊島区巣鴨に山車派遣を実施し、宣伝活動の充実を図ったところである。

- ⇒ ポスターやチラシ、テレビスポットなどで使用する公式ロゴ、公式ロゴデザイン、各コピーを活用し情報発信を行うと同時に、ターゲットを絞った広告宣伝活動を実施する。

\*平成28年の「新庄まつりの山車行事」のユネスコ無形文化遺産登録は、新庄まつりを海外に向けて発信していく上で、非常に有用な要素となった。

⇒ 東アジア諸国における各種観光イベントへ近隣の観光地と連携しながら、積極的に新庄まつりの情報発信を行うと同時に、来訪時の受け入れ体制を整備する。

⇒ 屋外広告媒体、SNSの活用、宣伝効果の高い新庄まつりグッズ等の販売に注力する。また、キャンペーンについては、囃子に山車(映像・本物)の演出を加えるようなまつり全体を伝える手段について検討する。

今村翔吾氏(直木賞作家)、山本哲也氏(元NHKアナウンサー)の観光大使の活動の場やメディア出演時に新庄まつりの情報発信をしていただく。

\*山車若連や囃子若連の活動は、地域内での世代間交流は勿論のこと、地域間の交流も促進し、地域コミュニティに好影響を与え、新庄市のまちづくりにおいて重要な役割を果たしている。

しかしながら、まだ各団体の活動には、新たに外部から参加しづらい雰囲気が感じられ、新しい人材がいかに参加しやすいような雰囲気を作ることができるかといった課題がある。

今後、人口減少社会が深刻化し、各若連での人手の確保が難しくなることが予想される状況において、各若連の活動をどのようにして維持していくのか検討する必要がある。

## 参考

「新庄まつり百年の大計・第4期計画」 新庄市商工観光課発行

